

2024年 世界で起こった紛争・テロ

世界の紛争	概要
ロシア・ウクライナ戦争	2022年2月24日にロシア連邦が開始したウクライナへの全面的な軍事侵攻。国連は、2024年8月時点でウクライナでは少なくとも1万1743人の民間人が死亡し、2万4614人が負傷したと発表。 また2024年10月に米国は、ロシア軍の死傷者の規模は61万5000人（戦死者11万5000人、負傷者50万人）、ウクライナ軍は30万7000人（戦死者5万7000人、負傷者25万人）ほどだと推算している。 ウクライナとロシアは軍の被害規模を詳しく公開しておらず、推定しかできない。
パレスチナ・イスラエル戦争	ガザ紛争におけるパレスチナ側の死者は2024年12月31日午後の時点で4万6376人、負傷者は11万人近くに達する。さらにガザ保健省によると、24年の死者数は2万3842人、負傷者は5万1925人。その半数以上が女性と子供であった。
スーダン内戦	2023年4月、国軍と準軍事組織「即応支援部隊（RSF）」による内戦がスーダンで始まり、この2年足らずで約2万人が死亡（関連死も含めて死者数約15万人という発表もある）。 約1100万人が家を追われ、人口の半数にあたる約2600万人が飢餓危機に陥っている。
ハイチ内戦	ハイチのギャング暴力の激化により100万人以上が避難。国連人権事務所によると、2024年では5600人以上が殺害され、殺人件数は2023年の全期間と比べて20%以上増加した。さらに、2200人以上が負傷し、1500人近くが誘拐されたと報告されている。また家を失い避難を余儀なくされた人々は2万人に達しているという。 首都に残る約400万人の住民が事実上人質状態に置かれている状態。
リビア内戦	2011年のカダフィ政権崩壊後、内戦状態を経て議会と政府が東西に併存し、政治的に不安定な状況が続いている。主要都市や国境地帯で民兵間での武力衝突が頻発し、何十人もの死亡者が出ている。
イエメン内戦	政府と反政府勢力が対立する内戦（2015年～）でイスラム教シーア派系ザイド派の武装組織フーシ派と政権側との対立。現在1820万人が人道支援を必要としている。2015年～2021年で37万7000人が死亡。

中央アフリカ共和国内戦	反政府武装勢力セレカとキリスト教系武装組織バラカと中央アフリカ共和国政府の間で2012年から始まった内戦。内戦が始まって以降、2017年までに最大1万人の子どもたちが武装勢力に誘拐や勧誘され、「子ども兵士」として戦闘に参加させられる。 2019年の和平合意以降も、一部の武装勢力による暴力や攻撃が断続的に続き、現在も多くの人々が厳しい避難生活を余儀なくされている。2023年4月時点で、隣国チャドを含む近隣国に逃れている難民は約74万人、国内避難民は48万人に達している。
マリ北部紛争	マリ北部のツアレグ人や、他の民族集団、また武装組織「大サハラのイスラム国」などが経済的な理由や文化的な自決権を求めて反政府活動を行うことで発生。マリ軍には、ロシアからの支援（ワグネル）が行われている。現在、武装組織は、村々を襲撃、住民を殺害し、数千人が土地を追われている。被害数は、明らかになっていない。
シリア内戦	シリア政府軍とシリアの反体制派及び外国勢力を含むそれらの同盟組織などによる多面的な内戦（2011年開始）。1960年以降の世界史において最も難民が発生した戦争と言われている。2024年12月8日にシャーム解放機構を中心とした反政府勢力の攻勢によりアサド政権が打倒された。2024年3月時点で死者約61万人とされる（シリア人権監視団）。
エチオピア内戦	政府と反政府勢力のエチオピア連邦統一軍事戦線との間で起こった内戦（2018年開始）。2020年から始まったティグレ州での戦闘は ティグレ紛争とよぶ。
ナイジェリア北東部紛争	中央政府とイスラム過激派組織「ボコ・ハラム」は戦争状態にあり、10数年にわたる戦いで3万5000人以上が死亡、260万人以上が住居を失ったと推定。
アフガニスタン紛争	1979年以来断続的に戦闘が続いている。1996年にはタリバン勢力が台頭、アメリカ同時多発テロが発生し、アメリカとの戦争が開始。2021年8月に米軍が撤退し、タリバン政権となったが、現在も不安定な状況が続いている。

ニジェール内戦	2023年7月のクーデターでバズム大統領が追放されて以来、西側諸国との関係が悪化。軍政は旧宗主国フランスに部隊撤退を命じ、今年5月には米国との軍事協定を打ち切ると一方的に発表し米軍が9月に撤退。以降、軍政は国際テロ組織アルカイダやイスラム国（ISIS）系組織による暴力の激化に直面している。 人権団体などによると、2024年に入ってから攻撃で死亡した民間人や兵士は1500人を超え、2023年の650人を大幅に上回っている。
ミャンマー内戦	1948年にイギリスから独立して以来、内戦が続いている。政府や少数民族武装勢力、軍政に抵抗する組織など、さまざまな武装集団が各地で戦闘を繰り返している状況。
ブルキナファソ内戦	アルカイダ系武装組織「イスラム・ヌスラ戦線（JNIM）」による、攻撃が多発。8月には、民間人600人以上を虐殺する事件が発生し、現在、治安は著しく悪化している。
ソマリア内戦	過去20年間無政府状態であり、首都モガディシュや南部を実効支配するアルカイダ系組織アッシャバábによる要人爆破テロなどが起きている。

テロ・武力抗争発生国	
イラク	2023年10月中旬以降、米国を含む有志連合軍が駐留する基地を標的として、「イラクのイスラム抵抗」と称する民兵組織によるドローンやロケットによる攻撃が頻繁に発生。民間人を標的とした誘拐・殺害事案等も散発的に発生している。
パキスタン	パキスタンでは、ISIL関連組織「パキスタン州」や、バルチスタン解放軍などによる、テロや自爆テロが何件も発生。2024年では100人以上の死者や負傷者がでている。
インド	カシミール地方で、複数回テロが発生。死者、負傷者が出る。インドでは、イスラム過激派や極左過激派、分離・独立主義過激派等のテロ組織が存在し、テロ事案が継続して発生している。また、全国で年間10万7000件以上と、高い水準で誘拐事件が発生している（2022年データ）
トーゴ共和国	トーゴ北部では、アルカイダ系武装組織の襲撃が度々発生。兵士十数名以上が死亡。
フィリピン	フィリピンミンダナオ島では、テロや武装勢力とフィリピン軍の戦闘が散発的に発生。また外国人を標的にした誘拐も発生している。

トルコ	クルド労働者党員が防衛産業施設を襲撃し、5人が死亡、22人が負傷。 またシリア国境地帯やイラク国境地帯では、クルド系武装組織との衝突が散発的に発生している。
イスラエル及びパレスチナ	イスラエル中部・ラーナナで、パレスチナ人2人が、通行人を車両とナイフで襲撃し、1人が死亡、17人が負傷。 イスラエル中部・エルサレム旧市街で、トルコ人の男が、イスラエル国境警察官を刃物で襲撃し、同警察官が負傷。
イエメン	イエメン南部で、アルカイダ関連組織による、テロが発生し、兵士16人が死亡、18人が負傷。
レバノン	在レバノン米国大使館で、シリア人の男が発砲し、応戦したレバノン国軍との間で銃撃戦が発生。同大使館の警備員が負傷。
フランス	フランス南部で、アルジェリア人の男が、車2台に放火。駆けつけた警察官1人が負傷。
モザンビーク共和国	モザンビーク北部で、ISIL関連組織が、モザンビーク軍拠点を襲撃し、同軍兵士約20人が死傷。
ニジェール	ナイジェリア北東部で、ISIL関連組織と多国籍軍との戦闘中、ISIL関連組織戦闘員による自爆テロが発生し、同軍兵士複数人が死傷。
イラン	パキスタン、イラク及びアフガニスタン国境地帯等では、治安部隊と反政府組織との衝突等が散発的に発生。また、イスラエルとの衝突も発生している。 イラン南部では、ISIL関連組織によるテロが発生し、96人が死亡、約300人が負傷。
マリ	マリ西部で、アルカイダ関連組織によるテロが多発、軍兵士40人以上が死亡。
ソマリア	ソマリア首都で、アルカイダ関連組織によるテロが多発。40人が死亡、80人以上が負傷。
ブルキナファソ	アルカイダ関連組織による、テロや暴力が激化。2024年はテロなどによって最大770名が殺害される。
ベナン	アルカイダ関連組織が、ベナン軍部隊を襲撃し、同軍兵士4人が死亡。
ロシア	ロシア首都モスクワ郊外で、ISIL関連の男4人が、民間人を銃等で襲撃し、144人以上が死亡、551人以上が負傷。 また南部で、ほぼ同時刻にISIL関係の男らが、数力所の施設を襲撃し、警察官ら22人が死亡、警察官12人を含む45人が負傷。

ナイジェリア	ナイジェリア北東部で、ISIL関連組織と多国籍軍との戦闘中、ISIL戦闘員による自爆テロが発生し、同軍兵士複数人が死傷。9月ナイジェリア北東部で、ISIL関連武装集団が民間人を襲撃し、約80人が死亡。
スイス	スイス北部で、チュニジア系スイス人の男が、ユダヤ教超正統派を信仰するとされる男性を刃物で襲撃し、同男性が重傷。
ドイツ	ドイツ南西部で、アフガニスタン人の男が、イスラム主義を批判する集会の参加者らをナイフで襲撃し、警察官1人が死亡、集会参加者ら5人以上が負傷。 ドイツ西部で開催された市政650周年を祝うイベントで、シリア人の男が、来場者らを刃物で襲撃し、3人が死亡、8人が負傷。
ブルンジ	ブルンジ国内の一部の地域および隣国であるコンゴ民主共和国との国境付近には、武装勢力が存在しており、地元集落に対する襲撃や強盗などが発生している。武力攻撃によ死亡者もでている。
チャド	武装集団が、チャド軍を襲撃し、約40人が死亡。
セルビア	在セルビア・イスラエル大使館で、セルビア人の男が、同大使館の警備に当たっていた警察官をクロスボウで襲撃し、同警察官が負傷。
コンゴ共和国	ISIL関連組織が、村を襲撃し、40人以上が死亡。民間人の殺害を伴う武力衝突が頻繁にばっ発し、何十万人もの人々が繰り返し国内外で避難を強いられている。
オマーン	首都で、ISILの男3人が、シーア派モスクを襲撃し、民間人5人及び警察官1人の計6人が死亡（実行犯3人もその場で死亡）、28人が負傷。

* ISIL：イスラム過激派組織「イラク・レバントのイスラム国」